

推進校は、動物の適正な飼育や動物愛護の心を培う体験活動の実施に向け、研修会を行っています。その際、学校担当獣医師から、動物飼育に関わる専門的な内容について指導を受けています。

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

実践事例

渋谷区立幡代小学校

【実践の概要】

校内の全教職員を対象に学校担当獣医師を招いて研修会を開催しました。学校担当獣医師より、学校での動物飼育について講義をしていただきました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

担当獣医師による講義の内容は、学校動物飼育の根拠に関する話や様々な実践事例、意義、そして東京都獣医師会による支援体制等についてです。

教員に分かりやすいように学習指導要領の該当部分を示しながら、丁寧に御説明をしていただきました。

【教員の反応】

- 学校で飼育している動物に児童が愛着をもち、そしてその死を体験することが、児童にとってとても大きな学びとなることを教えていただいた。
- 学校の動物飼育について、改めて考える機会となった。児童が命の大切さを学んでいけるよう、学校担当獣医師と連携した授業等を計画的に実施していきたい。

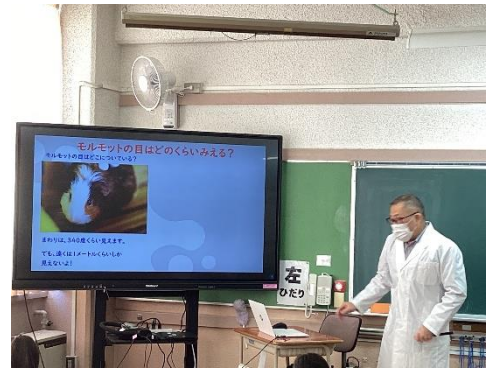


実践事例

中野区立上鷺宮小学校

【実践の概要】

- 学校担当獣医師が、全職員対象にモルモットの飼育についての研修会を実施しました。
- モルモットのかかる病気や食べ物などについて、御指導をしていただきました。
- モルモットの飼育方法について、爪切りの実技研修をしていただきました。



学校担当獣医師による説明

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 夏季休業日前に実施した研修では、飼育担当教員や第2学年の児童からの質問を伝え、御助言いただきました。
- 御助言いただいたことで、飼育委員会担当や、担当学年の担任は飼育状況が適切かどうかを確認することができました。

【教員の反応】

- 学校担当獣医師から御指導を受け、モルモットの生態について詳しく知ることができました。
- 講義だけでなく、抱っこの仕方や爪の切り方などの実技的な内容についても御指導いただき、モルモットの飼育について児童からの質問にも答えられる教員が増えました。



実践事例

八王子市立宇津木台小学校

【実践の概要】

- 研修会では、学校担当獣医師をお呼びして、ウサギの飼育方法についてのお話を伺いました。
- 飼育環境について教えていただくことで、ウサギの環境に適した飼育方法を選択することができました。



飼育環境について御指導を受けている様子

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 暑いときや寒いときにウサギが快適に過ごすにはどんなことに気を付けたらよいか、学校担当獣医師に御助言いただきました。



夏や冬はゲージに入れて室内で飼育している

【教員の反応】

- 学校担当獣医師から御指導を受け、ウサギの生態や飼育方法等の基本的な知識を得ることができました。
- ウサギの生態を知ることで、飼育するときにはどんなことに気を付ければよいか、具体的に知ることができました。



実践事例

青梅市立第七小学校

【実践の概要】

7月に教職員・保護者・地域対象の研修会を実施

研修会の内容

- ・ウサギの世話の仕方（抱き方、えさの種類と量）
- ・ウサギ小屋内の衛生環境について
- ・猛暑期間や厳冬期間のウサギの飼育体制等について
- ・地域、保護者との連携について



7月の研修会にて、
上の写真は、学校担当獣医師より、本校教職員がウサギの世話の仕方を学ぶ様子
下の写真は、学校担当獣医師、東京都教育委員会事務局、本校教職員でウサギ小屋の様子の視察

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

最初の学校担当獣医師との打合せの時に、学校担当獣医師及び地域の獣医師に、本校のウサギの飼育小屋の現状などを見ていただき、主に以下の三つの課題を指摘いただきました。

- 1 ウサギ小屋内の衛生環境と安全性について
- 2 猛暑期間や厳冬期間のウサギの飼育体制について
- 3 ウサギと児童との関わり方について

上記三つの課題について、学校担当獣医師、視察に来られた東京都教育委員会の担当指導主事及び青梅市教育委員会の指導主事と相談をしながら、予算との兼ね合いも考慮しつつ、できることを模索した1年間となりました。

その中では、特に「2 猛暑期間や厳冬期間のウサギの飼育体制」について、夏季休業中及び冬季休業中に、のべ7家庭によるウサギのホームステイを実施することで解決できました。

【教員の反応】

- ・ウサギのホームステイの実施は、保護者にも喜ばれ、よい試みだった。ただし、小屋からゲージにウサギを入れるのに大変な手間がかかること、ホームステイ中にウサギの体調が悪くなった時に、動物病院に連れて行くなどの金銭的な担保をどうするかが課題だと感じる。
- ・衛生面や安全面を考え、ウサギ小屋内を、現状の土の状態から、コンクリートに移行することについては、排水の問題や予算面の問題もあり、現状では難しいのではないかと感じる。



実践事例

小平市立小平第九小学校

【実践の概要】

- 学校教育で動物を飼育する意義について改めて全体共有を図りたいこと、避けて通れない動物の死についての児童と教員の向き合い方の確認、その後の具体的な対応方法について知りたいという声から、教職員対象の全体研修を設定しました。
- 全体研修では、「動物の死について」をテーマとし、学校担当獣医師から、生命の尊さを感じさせること、学校で継続的に飼育を行うことの意味をお話しいただきました。
- 飼育に携わる学年の教員に向けた飼育方法の研修を実施しました。また、分からないことへの相談の時間を設けました。

【学校担当獣医師や保護者等との連携】

- 学校担当獣医師の意向を踏まえ、全体研修に向けて事前に教員にアンケート調査を行い、研修テーマを決定しました。研修では学校担当獣医師への質疑も行いました。
- 長期休業中のホームステイのボランティアの方に、緊急時の対応マニュアルと飼育方法の冊子を渡しました。また、飼育に対する不安感を軽減するために簡単な研修を行いました。



亡くなったウズラとお別れ会を行う。
死骸を箱に入れてお花できれいに飾る。

【教員の反応】

- 「指導の見通しをもてた。」、「継続して飼育することの意味に気付けた。」、「飼育動物が亡くなった際はセレモニーを行って児童や飼育に携わった人達の気持ちに区切りをつけることの意味や児童への指導的価値を学べた。」、「緊急時の動きが明確になり、安心した。」